

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	考古学概論 2	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	1年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@oki.u.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい 博物館資料としての考古資料の保存と、公開されるまでについて学ぶ。考古資料の取り扱いや公開・活用について学習し、考古資料展示の実例に触れ、展示される考古資料について理解を深める。展示に必要な日本考古学の成果についても紹介する。遺跡や出土資料が展示・活用される実例を中心に講義する。	メッセージ 多くの博物館の展示では、歴史資料の一番はじめに考古資料が並んでいます。展示公開される考古資料に触れる授業を展開します。
	到達目標 考古学資料の展示について理解できる。 展示された考古資料について自分の言葉で説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	文献①参照
	2	考古資料の収集の実際と関連法規	文献①②参照
	3	多様な考古資料	文献④②参照
	4	発掘報告書の見方と遺物収納、貸し出し、閲覧	文献⑥参照
	5	文化財保護法と世界遺産条約	文献③参照
	6	遺物の保存処理と活用、パブリックアーケロジ	文献②参照
	7	日本の考古学（1）旧石器時代	各自課題発表、文献④⑤参照
	8	日本の考古学（2）縄文時代	各自課題発表、文献④⑤参照
9	日本の考古学（3）弥生時代	各自課題発表、文献④⑤参照	
10	日本の考古学（4）古墳時代	各自課題発表、文献④⑤参照	
11	日本の考古学（5）歴史時代（古代・中世）	各自課題発表、文献④⑤参照	
12	日本の考古学（6）歴史時代（近世・近代）	各自課題発表、文献④⑤参照	
13	※講義の1回を沖縄県立博物館の展示見学を予定	感想提出	
14	※講義の1回を沖縄県立埋蔵文化財センターの見学を予定	感想提出	
15	まとめ		
16	レポート	課題提出	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。基本的に講義形式で行う。受講者に課題を課し、発表することを計画する。 参考文献①鈴木公雄1988年『考古学入門』東京大学出版会。②松田陽・岡村勝行2012年『入門パブリック・アーケオロジ』同成社。③澤村明2011年『遺跡と観光（市民の考古学）』同成社。④小野昭ほか2015年『日本発掘！ここまでわかった日本の歴史（朝日選書）』朝日新聞出版。⑤新泉社『シリーズ 遺跡を学ぶ』。⑥文化庁記念物課2010年『発掘調査の手引き』同成社。		
	学びの手立て 履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールにて連絡すること。 ・提出する感想と課題は、発表期日厳守の上必ず取り組むこと。 ・「考古学概論」を事前に受講しているとより理解が早い。但し、受講を前提とせず講義の中で随時補足説明を加え、これらの科目を受講していない学生も本講義を理解できるよう配慮する。なお、受講していない学生は文献①を事前に読むことを推奨する。 ※現場見学等については見学地の都合もあるため開催を見送る場合もある。		
	評価 レポート・課題・感想（80%）。平常点（20%）。 ※無断欠席5回以上になると「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 考古学研究によって得られた研究成果を広く身につけ、考古学調査を紹介できる能力を高める。 関連科目は「考古学概論」「沖縄の考古学」。上位科目としては「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「考古学特講Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館概論	後期	土6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲福 政斉	1年	授業終了後、教室において対応する	

学びの準備	ねらい 本科目は、博物館の存立の意義や機能、館種の分類をはじめ、博物館の歴史、学芸員の果たす役割や博物館関係法規、博物館倫理といった、博物館学芸員を目指す上で最も基礎的なことがらについての理解をねらいとする。	メッセージ 本科目は、科目名にも概論とあるように、学芸員養成科目全体を俯瞰し、相互の関連等にも意を払いつつ授業を進める。また、博物館現場の今日的な実情や課題等についても、授業内容に随時反映させていく。
	到達目標 ・博物館の存立の意義や機能、館種の分類など、博物館に関する基礎的な知識を習得する。 ・世界、日本、沖縄の博物館の歴史について、その概要を習得する。 ・博物館法および関連法規等について学び、わが国における博物館の位置付けを理解する。 ・博物館の業務に関わる者が職務を遂行する上で常に念頭に置くべき職業倫理について理解する。 ・学芸員に求められる資質のひとつである、的確な情報の収集と整理に基づき理論的な分析や考察を行う能力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション — 博物館概論について—	館園の見学、関連資料や情報の収集
	2	博物館とは（はじめに）	同上
	3	博物館学の歴史と課題	同上
	4	博物館の機能と分類	同上
	5	世界の博物館史	同上
	6	日本の博物館史	同上
	7	沖縄の博物館史	博物館法および関連法規等の確認
	8	博物館法 逐条解説 ① — 法制定の目的・博物館の定義と事業 —	同上
	9	博物館法 逐条解説 ② — 学芸員・博物館の設置及び運営上望ましい基準 —	同上
	10	博物館法 逐条解説 ③ — 博物館の評価・博物館の登録制度 —	同上
	11	博物館法 逐条解説 ④ — 公立博物館 —	同上
	12	博物館法 逐条解説 ⑤ — 私立博物館・博物館相当施設 —	同上
	13	博物館と学芸員の職業倫理	小考査の出題範囲の学習
	14	小考査（博物館法に関する内容）	博物館に関する倫理規定等の確認
	15	博物館の職業倫理規定	期末レポートの作成
16	ふたたび博物館とは（総括）	同上	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは特に指定しない。レジュメおよび博物館関連法規等の資料を配布し、これらを用い授業を進める。 ・時間外の自主学習および博物館を見学する際に参考となる図書として、次のものを掲げておく。①全国大学博物館講座協議会西日本部会編『概説 博物館学』2002年 芙蓉書房出版、②水藤真『博物館を考える—新しい博物館学の模索』1998年 山川出版社、沖縄県博物館協会編『沖縄の博物館ガイド』2008年 編集工房東洋企画、③中村浩・池田榮史『ぶらりあるき沖縄・奄美の博物館』2014年 芙蓉書房出版
-------	--

学びの実践	学びの手立て ・本科目の授業は講義を中心に進め、レジュメや板書は要点を示す程度にとどめる。講義の中で特に重要と思われる点は各自で記録し、要点をまとめ、十分に理解を深めるよう心がけること。的確な情報の収集と整理を行い、これに基づき理論的な分析や考察を行うことは、学芸員に求められる重要な資質である。 ・可能な限り実際に博物館に足を運び、展示はもとより施設や設備等について見聞する機会を多くもつよう心がけること。百聞は一見に如かずである。 ・授業への欠席および遅刻は減点の対象とする。また、課題の提出期限については厳守のこと（締切後の提出については一切受理しない）。
-------	--

学びの実践	評価 本科目の成績は、講義への出席40%、考査（博物館法の規定に関するもの）20%、レポート（各自で実際に博物館施設を見学した上で論述するもの）40%の割合で評価するものとし、初回授業時にその詳細についての説明を実施する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・博物館概論は博物館学芸員資格を取得する上で最も基礎をなす科目であり、本科目で習得した理念や知識をふまえて他の関連科目を履修してもらいたい。 ・本科目で取り扱う博物館法および関係法規等は随時改正が行われているので、本科目履修後も折にふれ最新の条文によりその内容を確認しつつ他の関連科目の学習に臨んでもらいたい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館学史	前期	月 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-比嘉 明子	2年	ptt843@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	博物館について、博物館の成り立ちや博物館学の流れを知るとともに、表から見える活動だけではなく、保存や研究といった博物館の土台を支える学芸員の仕事や博物館に関わる人びと、場所の果たす役割等についても学ぶ。	各講義の内容と関連する博物館や美術館についても紹介していきます。できるだけ博物館の多様性や可能性について、興味深く感じ取れるようにしたいと思います。
到達目標	博物館を来館者として外から眺めるのではなく、博物館の成り立ちを知り、学芸員の表からでは見えづらい仕事について学ぶことにより、学芸員に必要な、内から博物館をみる視点を養うことを目指す。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	博物館のはじまり（1）	配布資料をよく読むこと
	3	博物館のはじまり（2）	配布資料をよく読むこと
	4	博物館のはじまり（3）	配布資料をよく読むこと
	5	博物館学とは	配布資料をよく読むこと
	6	博物館学史（1）	博物館等の見学
	7	博物館学史（2）	中間レポート作成
	8	博物館に関わる人びと（1）	中間レポート提出
9	博物館に関わる人びと（2）	博物館等の見学	
10	博物館に関わる人びと（3）	配布資料をよく読むこと	
11	博物館の役割・機能（1）	配布資料をよく読むこと	
12	博物館の役割・機能（2）	博物館等見学	
13	博物館の役割・機能（3）	期末レポートへの取り組み	
14	博物館をめぐる問題・これからを考える（1）	配布資料をよく読むこと	
15	博物館をめぐる問題・これからを考える（2）	期末レポート作成	
16	まとめ	期末レポート提出	
実践	テキスト・参考文献・資料など	講義ごとにプリントを配布する。参考文献は講義ごとに関連する文献を紹介する。	
学びの手立て	普段から積極的に博物館や美術館、展覧会等へ足を運び、関心を持っておくこと。遅刻や私語、授業中の態度、携帯電話のマナー等に気をつけ、常識ある態度でのぞむこと。原則として欠席はいかなる理由であっても欠席として扱う。（ただし伝染病による出席停止や忌引き、実習等に関する公欠の場合には、相談・調整により対応を検討する。）		
評価	出席（10％）講義回数の1／3以上の欠席は不可。遅刻は減点の対象。授業態度。 コメント票（40％）講義毎に感想や意見のフィードバックを行う。1回毎に評価する。 中間レポート（25％）課題に対し、的確にテーマを捉え、自分の考えや意見をまとめているかを評価する。 期末レポート（25％）これまで学んできたことや博物館体験等をふまえ、具体的に自分の感じたことや考えたことをまとめているかを評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 博物館学関連の科目。引き続き、多様な分野の博物館や美術館、展覧会等へ足を運び、さらに見聞を深める。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館学評論	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-比嘉 明子	2年	ptt843@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	博物館とはどのようなものか。博物館体験は私たちにとって、何をもちたらずのか。博物館について主に来館者の視点から概観し、多角的に博物館を捉えることを目指す。博物館を取り巻く状況や問題点、課題等について、実際の博物館体験を元にしながらかえる。	自分自身の博物館体験を振り返りながら、博物館について考えていきます。講義やグループワークを通して、自分では気づけなかったことや一人では見えにくいことが発見できるかもしれません。来館者の視点を考えることは、博物館の活動を考える上でとても大切なことです。

到達目標	博物館体験について、「博物館へ行く前に」「博物館の中で」「博物館体験の後で」の3段階に分け、来館者の動きや博物館での学び、記憶について考えていく。それらを元に、博物館を評価する基準を考え、実際にグループでの博物館見学を行う。グループでの博物館体験を通し、来館者にとって必要なことはどのようなことなのか、個人で見学することと複数で見学することの違い等、来館者の目を通して見える博物館について考えることができる。またグループでの作業を通し、チームで動くことや意見をまとめることの楽しさや難しさについても学ぶ。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	博物館を評価する	博物館へ行く前の情報収集を行う1
	3	博物館体験：博物館へ行く前に（1）	博物館へ行く前の情報収集を行う2
	4	博物館体験：博物館へ行く前に（2）	大学博物館について調べる
	5	博物館体験：大学博物館	博物館見学
	6	博物館体験：博物館の中で（1）	中間レポート作成
	7	博物館体験：博物館の中で（2）	中間レポート提出
	8	博物館体験：博物館体験の後で（1）	過去の博物館体験について考える1
	9	博物館体験：博物館体験の後で（2）	過去の博物館体験について考える2
	10	博物館体験を創造する	宿題：博物館を評価する基準
	11	[グループワーク] 博物館を評価する基準を考える（1）	課題にグループで取り組む
	12	[グループワーク] 博物館を評価する基準を考える（2） 発表	博物館見学（グループ）、発表準備
	13	[グループワーク] 博物館体験・評価 発表（1）	発表準備
	14	[グループワーク] 博物館体験・評価 発表（2）	発表のまとめ、期末レポート作成
15	博物館体験を振り返って	期末レポート作成	
16	まとめ	期末レポート提出	

実践	テキスト・参考文献・資料など 講義毎にプリントを配布する。 参考文献：『博物館体験 学芸員のための視点』 ジョン・H・フォーク／リン・D・ディアーキング・著／高橋順一・訳／雄山閣／1996年
----	---

学びの手立て	普段から積極的に博物館や美術館、展覧会等へ足を運び、関心を持っておくこと。遅刻や私語、授業中の態度、遅刻や私語、授業中の態度、携帯電話のマナー等に気をつけ、常識ある態度でぞむこと。 原則として欠席はいかなる理由であっても欠席として扱う。（ただし伝染病による出席停止や忌引き、実習等に関する公欠の場合には、相談・調整により対応を検討する。）
--------	--

評価	出席（10%）講義回数の1／3以上の欠席は不可。遅刻は減点の対象。授業態度。 コメント票（25%）講義毎に感想や意見のフィードバックを行う。1回毎に評価する。 グループワーク（30%）グループで課題に取り組み、博物館見学を行い、発表する。 中間レポート（20%）課題に対し、的確にテーマを捉え、自分の考えや意見をまとめているかを評価する。 期末レポート（15%）講義・グループワークを通し、自分の考えや感想をまとめているかを評価する。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 博物館学関連の科目。引き続き、多様な分野の博物館や美術館、展覧会等へ足を運び、さらに見聞を深める。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館教育論	後期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前田 一舟	1年	ptt219@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、博物館における教育とは何かを県内外の事例より学ぶが進められている。それと同時に学芸員が利用者の為に果たす役割等を探り、学芸員の資質を養うことをねらいとする。	近年、学芸員には調査研究の姿勢だけでなく、教育普及活動の取り組みも求められている。そこで、どのような手法で地域へ還元する役割があるかを実体験や先行研究等の事例から自主学習を通して学習していく。
到達目標	博物館は、教育基本法の改正に伴い生涯学習の理念等が盛り込まれ、その実現を図る為、現代社会のニーズに対応した教育活動の場が進められている。その為、博物館学芸員には調査研究に裏付けられた高度な専門性とその学習への活用が強く求められている。地域に根ざした博物館と学芸員の果たす役割は、地域とのリレーションシップづくりが不可欠であり、知的発見の場として、さらに学習の成果の活用という教育活動が重要視されなければならない。講義で取り扱う内容は、知的発見の場を設定する場に欠かせない調査研究をはじめ、その成果をもとに、どのような手法で学校教育と生涯学習等へ活用できるか、学習を通してどのように地域産業に結びつけられるかを博物館の現場から事例を取り上げていく。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要説明及び学生からみた博物館の印象とは？	シラバスを読むこと
	2	博物館における教育普及活動とは？	博物館法及びその関連法の把握
	3	展示で教育する	自主学習①（博物館調査）
	4	チラシとポスターから始める教育の展開	自主学習②（チラシ等調査）
	5	風景をデザインする教育の展開	自主学習③（教育活動調査）
	6	教育普及の方法（1）〔事例：展覧会の反省と展望〕	自主学習④（企画展等調査）
	7	教育普及の方法（2）〔事例：ネットラジオ〕	自主学習⑤（広告調査）
	8	文化財と博物館の教育普及活動（1）〔事例：民俗技術編〕	自主学習⑥（文化財調査）
	9	文化財と博物館の教育普及活動（2）〔事例：遺跡編〕	自主学習⑦（体験学習調査）
	10	体験学習と博物館の教育普及活動（1）〔事例：ジャンク博士編〕	自主学習⑧（総合学習調査）
	11	体験学習と博物館の教育普及活動（2）〔事例：船の模型づくり編〕	発表資料収集①
	12	総合学習と博物館の教育普及活動（1）〔事例：ジュゴン編〕	発表資料収集②
	13	総合学習と博物館の教育普及活動（2）〔事例：音楽編〕	発表資料収集③
	14	市民主導が変える博物館（教育から考えるミュージアム産業）	発表資料作成①
15	これからの博物館と教育（1）〔発表：講評〕	発表資料作成②	
16	これからの博物館と教育（2）〔発表・講評・まとめ〕	発表資料作成③	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回プリントを配布する。 ・時間外の自主学習に役立つ参考文献として以下を推薦する。 <ul style="list-style-type: none"> ①安村敏信、『美術館商売』、勉誠出版、2004年。 ②塚原正彦、『ミュージアム集客・経営戦略』、日本地域社会研究所、1999年。 ③小菅正夫、『<旭山動物園>革命』、角川書店、2006年。

学びの実践	学びの手立て
	<p>【学びの手立て】・授業のなかで配布した資料や紹介した情報を復習し、次の自主学習へ取り組むよう心掛ける。</p> <p>・授業では担当者による一方的な情報提供だけでなく、自主学習及び意見参加型の場を常に求める為、自発的な意見等を要する。</p> <p>【履修の心構え】・授業の進行によっては博物館に関する日本の最新報道や台風等による休講からトピックの順序を変えたり、一部変更することがある。・授業を受講する上での最低限のマナー（携帯電話・遅刻・居眠り・退出・私語）は、心得ておくこと。また、課題等の提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けないので十分に留意すること。</p>

学びの実践	評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の到達目標を達成する為、授業のなかでその都度記述課題や学習課題を求める。その評価を以下のとおり設定する。 ・レポート（50%）、課題発表（40%）、平常点（質問や発言を適宜加点10%）より評価する。 ・出席状況については、遅刻並びに無断欠席が5回以上になると「不可」とする。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ul style="list-style-type: none"> ・関連科目としては、「博物館経営論」「博物館展示論」「博物館情報・メディア論」「博物館学評論」等があげられる。 ・次なるステージとしては、受講終了後に独自で取り組みたい興味のあるテーマを設定し、その自主研究を取り組んでほしい。とりわけ博物館及び学芸員の専門分野に関わるテーマを関連づけ、地域のミュージアム産業を基

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館経営論	後期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-翁長 直樹	2年	授業終了後に教室で受けつけます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	博物館は今運営形態が大きく変化している。本講座では制度や具体的な博物館活動などに即しながら学んでいく。民間委託や指定管理者制度など、行政改革の流れの中で現在の博物館が直面している問題についても具体的に触れる。	博物館運営を円る組織と職員構成、施設及び設備について具体例を挙げて解説し、ミュージアム・マネジメントについて考えます。楽しく学べる博物館にするためには経営をどうするかについて考えます。
到達目標	①博物館の基本構成を知ることによって、実際の経営の現場で自らの役割を考えることができる。 ②博物館と地域社会など幅広い博物館ネットワークを知り、新たな博物館像を得る。 ③新たな運営方法にも柔軟に立ち会えることができるようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	博物館経営論とは	参考文献②第1章
	3	日本とアメリカの経営法	参考文献①第1章
	4	博物館経営の基盤 行財政	参考文献②第2章
	5	組織と職員	参考文献①第3、4章
	6	施設・設備	参考文献①第2章
	7	マーケティング（1）マーケティングとは	参考文献①第6章
8	マーケティング（1）利用者調査	参考文献①第6章	
9	使命・評価	参考文献②第3章	
10	博物館倫理	参考文献②第3章	
11	広報・営業	参考文献①第7章、②第4章	
12	ミュージアムネットワーク	参考文献②第5章	
13	指定管理者制度	参考文献②第6章	
14	博物館経営の課題	参考文献②第7章 ネット等で学習	
15	まとめ	ネット等で学習	
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など	・テキストは使用しません。プリントを配布します。 参考文献：①『博物館学講座12博物館経営論』雄山閣、2000、¥3240 ②『新博物館学教科書 博物館学III』学文社、2012、¥2300 ③その他参考資料	
	学びの手立て	・履修の心構え 毎回授業のまとめを提出するので、欠席の場合は翌週欠席届を提出。日頃から博物館・美術館には通う習慣を身につける。	
	評価	テストは実施せず、出席と平常点（授業時間中の提出物評価）とレポートにて評価します。 レポート・・・（課題は期間中に提示。最終授業までに提出）	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	経営的感覚を養い、批判的、創造的に運営者の視線で博物館を鑑賞できるように努力しましょう。実践に役立てるつもりで学びましょう。

※ポリシーとの関連性

博物館資料の保存に関わる調査、環境整備、保護措置や修復等の知識の習得、及び取扱いに関する基礎的能力を養う。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館資料保存論	前期	土5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大湾 ゆかり	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 博物館で取り扱う「もの」資料を適切に保存する上で、資料の材質、保存環境の整備、複製作成、修復作業にいたるまで、基本となる考え方や処理方法等を紹介する。また、資料の取り扱い方や保存容器等の作成方法についても学習する。	メッセージ まず、本気で学芸員になりたいのか自己確認してもらいたい。自分が学芸員になった場合、どういうことをしたいのかというイメージや目標を持った上で、資料の保存に向き合ってください。そうすれば、資料保存に関する学習も必ず身につくはずですよ。
	到達目標 ・資料の物理的な性質と劣化要因を理解した上で、資料保存の上で必要な手だてについて学ぶことができる。 ・講義内容の要点をまとめて報告する表現方法や文章作成の能力を高める。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	博物館における資料保存の意義	提出シート1 (初回アンケート)
	2	博物館資料の保存環境1 資料保存の諸条件とその影響 (温湿度・光)	提出シート2 (授業内容の復習)
	3	博物館資料の保存環境2 資料保存の諸条件とその影響 (大気)	提出シート3 (以下同様)
	4	” 生物被害とIPM (総合的有害生物管理)	提出シート4
	5	博物館資料の保存環境3 災害の防止と対策 (火災・地震・水害・盗難等)	提出シート5
	6	資料の保全1 状態調査・現状把握	提出シート6
	7	博物館見学 (常設展・その他) ※日時変更あり	提出シート7 (又はレポート)
	8	資料の保全2 資料の材質	提出シート8
	9	資料の保全3 資料の保存処置と修復 (1) 記録資料	こより
	10	” 資料の保存処置と修復 (2) 民俗資料	提出シート9
	11	資料の保全4 資料の複製・保護処置	提出シート10
	12	資料の保全5 資料の梱包と輸送	提出シート11
	13	環境保護と博物館の役割1 地域資源の保存と活用 (エコミュージアム等)	提出シート12
14	環境保護と博物館の役割2 文化財の保存と活用 (景観・歴史的環境を含む)	提出シート13	
15	まとめ		
16		試験	
	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 ・石崎武志 『博物館資料保存論』 (KS理工学専門書) 2012, 講談社 【参考文献】 ・東京文化財研究所編 『文化財の保存環境』 2011, 中央公論美術出版 ・全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 『博物館実習マニュアル』 2002, 芙蓉書房出版 ・京都造形芸術大学編 『文化財のための保存科学入門』 2002, 角川学芸出版 ・沢田正昭著 『文化財保存科学ノート』 1997, 近未来社		
	学びの手立て 1. 受講者数によって実習時に道具や材料の準備を要することあり。 2. 出欠確認は毎回行うので、遅刻・欠席は必ず届けを文書で出すこと。 3. 毎講義のアンケートは、翌週の講義に必ず提出すること。 4. 実習時には、机や道具の準備等、自主的に機敏に行動すること。		
	評価 ・出席日数が3分の2に満たない者には、評価は与えない。 ・評価は、出席状況と毎講義のアンケート及び課題 (レポート)、テストの内容等を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ぜひ自分が研究したいテーマを見つけて、卒業論文を書くこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館資料保存論	後期	金3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-藤波 朋子	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	博物館における資料保存および資料の保存・展示環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得し、資料の保存に関する基礎的能力を養うことを目的とします。博物館で扱う資料を適切に保存するうえで基本となる考え方、保存の方法等の紹介、資料の取り扱い方や、保存容器等の作成についても学習します。	博物館資料の保存のための科学的な要素も含まれてきますが、わかりやすく説明できたらと思っています。
到達目標		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	博物館における資料保存の意義	授業時配付プリント等
	2	博物館資料の保存環境 1 温湿度	テキスト2. 1、配布プリント等
	3	博物館資料の保存環境 2 光（照明）	テキスト2. 2、配布プリント等
	4	博物館資料の保存環境 3 大気・環境	テキスト2. 3、配布プリント等
	5	博物館資料の保存環境 4 生物被害 IPM	テキスト2. 4、配布プリント等
	6	博物館資料の保存環境 5 災害対策	テキスト2. 6、配布プリント等
	7	博物館見学（常設展・その他） ※日時変更あり	配布プリント等
	8	資料の保全 1 状態調査・現状把握	テキスト3. 1、配布プリント等
	9	資料の保全 2 資料の調査法	配布プリント等
	10	資料の保全 3 資料の保存処置と修復	配布プリント等
	11	資料の保全 4 資料の複製・保護処理	配布プリント等
	12	資料の保全 5 資料の梱包と輸送	テキスト3. 3、配布プリント等
	13	歴史に見る資料保存	テキスト2. 5、配布プリント等
14	資料の取り扱いと収納1	配布プリント等	
15	資料の取り扱いと収納2・まとめ	配布プリント等	
16	テスト		
テキスト・参考文献・資料など			
テキスト 石崎武志『博物館資料保存論』2012, 講談社 参考文献 ①神庭信幸『博物館資料の臨床保存学』2014, 武蔵野美術大学出版会 ②青木豊『人文系博物館資料保存論』2013, 雄山閣 ③京都造形芸術大学編『文化財のための保存科学入門』2002, 角川書店 ④沢田正昭著『文化財保存科学ノート』1997, 近未来社			
学びの手立て			
理解を深めるため、実習を行うことがあります。その際は事前に連絡しますが、服装等の注意、道具や材料の準備を要することがあります。			
評価			
出席日数が3分の2に満たない者には、評価は与えない。出席状況と講義毎のアンケートおよび課題、講義内での作業に取り組む姿勢、テスト等により理解度を総合的に評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	授業内で学習することは、ごく基本的なものになります。履修が終わっても、各単元について参考文献等に当たったり、各自で積極的に博物館展示を見学することで、学芸員としての業務に当たる際に必要となる基礎知識の定着のため、研鑽を積むようにしてください。

※ポリシーとの関連性

博物館学芸員資格取得科目で、博物館の基本を理解するための「基礎科目」として位置付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館資料論	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	2年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@okiu.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい 博物館資料に関する知識や取り扱いの心得を学ぶとともに、博物館の調査研究活動について理解し、博物館資料に関する基礎的知識を養う。	メッセージ 博物館資料について、収集・整理・保管等に関する基礎的知識や理論・方法について講義します。
	到達目標 博物館の資料の考え方を学び、学芸員としての社会的責務を理解できる。博物館が扱う資料について、その意味を理解できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・博物館資料とは？	シラバスをよく読むこと
	2	モノから資料へー調査と研究ー	関連資料を配付するので読むこと
	3	博物館資料の種類と分類	関連資料を配布するので読むこと
	4	博物館資料の収集	関連資料を配布するので読むこと
	5	博物館のコレクションポリシーについて（発表）	各自課題発表
	6	博物館資料の取り扱い、保管、管理	関連資料を配布するので読むこと
	7	博物館資料の整理（実習・資料受入原簿の作成①）	課題作成
	8	博物館資料の整理（実習・資料受入原簿の作成②）	課題作成
	9	博物館資料の公開	関連資料を配付するので読むこと
	10	博物館資料の修復と製作	関連資料を配付するので読むこと
	11	博物館資料の取り扱いの実践（課題作成）	各班で調べ学習、指定ビデオの鑑賞
	12	博物館資料の取り扱いの実践（発表）	各班課題発表
	13	博物館資料の活用	関連資料を配布するので読むこと
	14	博物館資料と地域、市民	関連資料を配布するので読むこと
15	まとめ	これまでの配付資料を読むこと	
16	レポート（博物館を訪ね博物館資料を見学し展示環境等を調べる）	各自課題に取り組むこと	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。出席確認を毎回厳格に行う。 参考文献①伊藤寿朗1993年『市民のなかの博物館』吉川弘文館。②大学博物館学講座協議会西日本部会編2012年『新時代の博物館学』芙蓉書房出版。③有元修一他編1999年『博物館資料論』樹村房。④青木豊2012年『人文系博物館資料論』雄山閣。		
	学びの手立て 履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。 ・提出するレポートと課題は、発表期日厳守の上必ず取り組むこと。 ・「博物館学概論」を受講していると理解が早い。受講していない学生も本講義を理解できるよう配慮する。		
	評価 課題・期末テスト（80％）。平常点（20％）。 ※出欠状況については無断欠席5回以上になると「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学芸員の視点から広く情報を収集し、展示会を見学するなど多くの博物館資料に触れること。 関連科目としては「博物館資料保存論」「博物館展示論」「考古学概論2」。上位科目としては「博物館実習Ⅰ・Ⅱ」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館実習 I	集中	集中	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの実践	次のステージ・関連科目
-------	-------------

学びの継続	
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館情報・メディア論	後期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	2年	研究室 (5433) またはメール: hiramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	博物館や美術館に求められるものは、まず、鑑賞の場・空間の提供である。そして、歴史や芸術、文化を教育する場の提供でもある。その2つの効果的な提供（鑑賞と教育）を実施するには「伝える」という手法が目的別に必要になる。そのため、メディアの効果・効率のよい利用法を習得することは不可欠である。	学芸員資格科目の1つであり、必修科目です。学芸員においても視聴覚技術を習得すると同時にICTに関する知識を習得しなければならいので、情報技術に関心を持って欲しい。

学びの準備	到達目標
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館におけるメディア利用の有効性とその役割を説明することが出来る。 2. 博物館などで利用されているデータ管理やアーカイブシステムについて説明することが出来る。 3. 知的財産や個人情報の取り扱いについて説明することが出来る。 4. 授業で学んだ知識を企画書作成に活かすことが出来る。

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回 講義 授業の内容確認とメディアの変遷 第2回 講義 メディアとは何か、情報とは何か 第3回 講義 博物館におけるメディアの意義、情報の意義 第4回 講義 メディアとは何か、情報とは何か 第5回 講義 情報教育の意義と重要性 第6回 講義 博物館活動において情報化の役割 第7回 講義 博物館の機能と扱う情報（データベース化とドキュメンテーション保管） 第8回 講義 博物館の機能と扱う情報（デジタルアーカイブの現状と課題） 第9回 講義 博物館における情報発信と管理（インターネットの活用と問題点） 第10回 講義 博物館における情報発信と管理（メディア制作の目標設定と評価法） 第11回 講義 情報機器の活用（必要とされる知識と技術） 第12回 講義 コミュニケーションを支えるICT 第13回 講義 知的財産権（著作権と特許）、個人情報保護（肖像権）、権利処理の方法 第14回 講義 企画作成書のノウハウ 第15回 講義 メディアを取り入れた企画書作成（博物館で可能な企画を立案）
	テキスト・参考文献・資料など 講義に必要なテキスト・資料等は適宜配布する。 博物館経営・情報論（放送大学教材）、新しい博物館学（芙蓉書房出版）、 情報社会の文化（東京大学出版会）、情報・メディア・教育の社会（東信堂）など

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義に必要なテキスト・資料等は適宜配布する。 博物館経営・情報論（放送大学教材）、新しい博物館学（芙蓉書房出版）、 情報社会の文化（東京大学出版会）、情報・メディア・教育の社会（東信堂）など
	学びの手立て 様々な博物館や美術館を見学し、展示方法にどのようにメディアが効果的に利用されているを紹介する。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義に必要なテキスト・資料等は適宜配布する。 博物館経営・情報論（放送大学教材）、新しい博物館学（芙蓉書房出版）、 情報社会の文化（東京大学出版会）、情報・メディア・教育の社会（東信堂）など
	評価 中間テスト、最終テスト、レポート、出席状況などを鑑み、総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年生になると博物館や美術館、資料館などで実習に入ります。その実習で授業で学んだことを実際の現場で活かすことができ、学芸員としての知識と技術が身につく。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館展示論	前期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-翁長 直樹	2年	授業終了後に教室で受けつけます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講座を通して実際の博物館・美術館の展示における例を数多く紹介しながら、博物館・美術館における展示の目的理念と効果が相乗的に提示できるには、いかにすべきかを学ぶ機会としたい。博物館における展示の意義と理念、人々と資料をつなぐコミュニケーションツールとして、価値づけられる展示活動の理論、展示の企画方法とその評価、展示の歴史と課題について論じる。</p>	<p>博物館展示は資料の収集・保管とならぶ博物館の主要な機能です。「展示」の理念的な意味や歴史、技術論、ストーリー、構成などを学びながら、展示の実例を参考に、展示担当者としてどうするかを考える機会にしたいと思います。</p>
到達目標	<p>①展示の基本的な理念を習得し、歴史的な経緯を学び、時代によって変わる展示思想を考える事ができる。 ②授業を通して、動線、展示空間、照明、演示具、展示ケースなどを学び、展覧会開催を目標に、主体的に学ぶことができる。 ③解説文をメディア、テーマによって書き分ける事ができる。展示企画書を作成する</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	展示とは何か	参考文献①第1章
	3	展示と展示論の歴史	参考文献②第2章
	4	博物館展示と展示ストーリー	参考文献②第3章
	5	展示空間の多様性	参考文献②第4章
	6	企画から完成まで 概要	同上
	7	博物館における展示の評価	参考文献②第5章
	8	展示の政治性と社会性	ネット等で調べておく
9	展覧会の実例 常設・企画	実際の展覧会を鑑賞しておく	
10	演示具・展示ケース・照明等	参考文献①第2章	
11	模型・レプリカ・映像装置等	参考文献①第3章	
12	解説文・解説パネルの特性、構造	同上	
13	企画から完成まで 開催された展覧会から学ぶ	実際の展覧会を鑑賞しておく	
14	館種別博物館の展示活動	参考文献①第VI章	
15	世界の博物館	ネット等で調べておく	
16	博物館展示の課題	参考文献②第8章	
テキスト・参考文献・資料など	<p>・テキストは使用しません。プリントを配布します。 参考文献：①『博物館学講座9 博物館展示法』雄山閣, 2000, ¥3240 ②『新博物館学教科書 博物館学II』学文社, 2012, ¥2300</p>		
学びの手立て	<p>・履修の心構え 毎回授業のまとめを提出するので、欠席の場合は翌週欠席届を提出。日頃から博物館・美術館には通う習慣を身につける。</p>		
評価	<p>テストは実施せず、出席と平常点（授業時間中の提出物評価）とレポートにて評価します。 レポート・・・（課題は期間中に提示。最終授業までに提出）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>テーマを設定し、企画書を作成し、展示空間を想定した展示計画ができるようにするのが次の目標です。展覧会を学芸員視点で鑑賞できるようにします。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化史 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮里 正子	3年		

学びの準備	ねらい 琉球・沖縄の歴史を造形物＝モノ資料（発掘品、彫刻、絵画、漆器、焼物、織物、染物など）をとおして学ぶ。特に造形物の背景となる政治や経済、社会構造なども検証しつつ造形意匠の持つ意味を考察し、琉球・沖縄を学ぶことが本授業のねらいである。前期では、主に「古琉球」を学ぶ。	メッセージ 造形物の画像を多用し、視覚的に学べるようにする。博物館・美術館の活用を促す情報を提供する。
	到達目標 琉球・沖縄の歴史や文化を学ぶことは、自身のアイデンティティ構築のベースになるものと捉えており、将来の職業や生活地域などに関わりなく重要で有ると考える。本授業の造形文化を学ぶことでその意識を促す機会としたい。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	沖縄のルーツと南島文化	自己のルーツを考える。
	3	貝の造形	身近な貝から歴史を考える。
	4	古琉球の造形①石の造形・グスクと世界遺産	グスク巡見を促す。ミニレポート
	5	〃 ②グスク出土の輸入陶磁器	〃
	6	〃 ③「浦添ようどれ」と造形	〃
	7	〃 ④尚真王時代の施策と造形	〃
	8	〃 ⑤神女にみる造形	
	9	文化と戦争 DVD集団疎開児童の記録	ミニレポート
	10	琉球国の外交政策から見える造形文化①中国明・清王朝その1	資料の熟読
	11	〃 ② 〃 その2	〃
	12	〃 ③朝鮮王朝	〃
	13	〃 ④東南アジア	
	14	文化と記録：鎌倉芳太郎と沖縄の文化	
15	古琉球から近世琉球へ 島津氏の琉球侵略		
16	テスト	古琉球の文化について理解度確認	
テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：使用しません。参考文献、使用資料、P P資料などはその都度プリントし配布します。			
学びの手立て ・出欠確認は毎回行う。欠席届は必ず提出すること。			
評価 平常点：60点 レポート：20点 テスト：20点			

学びの継続	次のステージ・関連科目 文化史Ⅱを継続受講すること。
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化史Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮里 正子	3年		

学びの準備	ねらい 琉球・沖縄の歴史を造形物＝モノ資料（発掘品、彫刻、絵画、漆器、焼物、織物、染物など）をとおして学ぶ。特に造形物の背景となる政治や経済、社会構造なども検証しつつ造形意匠の持つ意味を考察し、琉球・沖縄を学ぶことが本授業のねらいである。後期では、主に「近世琉球」と美術や工芸技術史を学ぶ。	メッセージ 造形物の画像を多用し、視覚的に学べるようにする。博物館・美術館の活用を促す情報を提供する。
	到達目標 琉球・沖縄の歴史や文化を学ぶことは、自身のアイデンティティ構築のベースになるものと捉えており、将来の職業や生活地域などに関わりなく重要で有ると考える。本授業の造形文化を学ぶことでその意識を促す機会としたい。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス 島津侵略と近世琉球	
	2	近世琉球の文化①琉球王国の改革と再興	
	3	〃 ②江戸立ちにみる造形	1～2週の資料を熟読
	4	〃 ③外交の華・芸能	
	5	〃 ④絵画・書	
	6	〃 ⑤染織王家伝来衣裳	〃
	7	〃 ⑥那覇士族のくらしと工芸品	〃
	8	〃 ⑦漆芸 1	
9	〃 ⑧ 〃 2	ミニレポート	
10	〃 ⑨ 〃 3	8～10週の資料を熟読	
11	〃 ⑩金工・焼物		
12	近代沖縄の文化①風俗にみる差別と憧れ		
13	②観光と文化		
14	現代沖縄の文化①灰燼の中からの文化活動	ミニレポート	
15	②工芸の復興		
16	テスト	造形文化について理解度確認	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：使用しません。参考文献、使用資料、PP資料などはその都度プリントし配布します。		
	学びの手立て ・ 出欠確認は毎回行う。欠席届は必ず提出すること。		
	評価 平常点：60点 レポート：20点 テスト：20点		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------